指標

国際医療交流の行方

副会長　竹 内　　實

平成２年８月サハリン州ユジノサハリンスクから火傷を負って緊急搬送されたコンスタンチン君に対して全国から寄せられた義援金を基に、平成４年４月に「公益信託北海道・ロシア極東医療交流基金」（愛称コースチャ基金）が設立された。

信託財産は義援金１億円、北海道出資金１千万円の計１億１千万円を中央三井信託銀行と契約運用されている。主務官庁は北海道があたっている。

基金発足後の平成４年６月、飯塚弘志基金運営委員長を団長とする６名の訪問団がサハリン州を訪問、基金発足の報告並びに同基金で行う事業の基本的事項について協議を行っている。訪問団帰国後、早速医師の受け入れ研修事業がスタートした。平成４年から平成11年までの実績は別表に示すとおりである。

コンスタンチン君来道から10年、今や全く正常生活を送っている彼も13歳、コースチャ基金が設立して８年が経過した。本年度基金運営委員会で再度サハリン州訪問事業が計画され、10月３日～６日、基金運営委員長である私が団長となり、運営委員である藤本征一郎北大病院長、工藤隆一札医大病院長、事務局の梅田善郁道保健福祉部地域医療課長、それに通訳の中原博子氏の一行５名が訪ロした。

サハリン州ユジノサハリンスク市は函館空港から空路で２時間弱、稚内上空を過ぎるとわずか40～50分で到着する。時差は２時間であるが、距離的には外国と思われない。しかし到着すると入国手続きにはかなりの時間を要するし、帰りは予約した飛行機が重量オーバーで搭乗拒否に遭う始末、やはり外国である。

今回訪問の目的は基金の行っている研修医師の受け入れ事業の成果の確認とそれを基に今後の研修のあり方を検討することにあった。またそれと共に現地の医療提供の実態を視察することも計画に含まれていた。今回訪問の報告書は参加者全員でまとめて運営委員会に提出されることになっているが、国際医療協力のあり方について感想を述べてみたい。

訪問２日目午後より、かつて北海道での研修に参加した全医師との意見交換会が開催された。ほぼ全員が参加し、概ね研修に意義があった発言が多かった。しかし研修期間や研修先についてのより充実した内容を求める意見もあった。サハリン州の医師の潜在的意識の中に医療レベルでは決して自分たちは劣っていない、しかし何しろ医療機器や医療材料の点ではかなりの開きがあるという認識が強いようである。訪問した病院も決して病室等は北海道の病院と遜色なく、また人口60万弱の中に2000人の医師とすると、人口対医師数は北海道の倍近いことになる。但し医師の給与は低く、収入を目的に医療を行っているのではなく、医師の使命感で働いているのだとの発言が印象的であった。ちなみにほぼ70％が女医さんとのことである。

会議後は場所を変えての懇親会が持たれた。ウォッカを中心に現地では夜を徹して飲み明かすのが習慣と聞いていたが、次の日のことも考え早々に退散した。懇親会では通訳役が３人加わり各テーブルで意見交換と懇親が図られた。

あっと言う間の訪問期間中、特に今回は産婦人科の施設の見学が多かった。ロシアも最近は少子化傾向とのことであるが、サハリン州での出産費用は原則的に無料であり、またいわゆるシングルマザーに対する対策も取られているようであっ

た。今後、医療交流を進めていく上で種々の格差をどう乗り越えるのかも一つの課題となりそうである。

コースチャ基金は現在設立時にほぼ近い運用財産を持っている。しかし近年の低金利運用で徐々に資金が減少傾向にある。今後の事業の展開をどうするのか、また本当に意義のある事業は何なのかを再検討する時期でもある。

今回提出される報告書を参考に基金運営委員会で十分な検討がされるはずである。更には今後の国際交流はどうあるのかの一つの事例として見守る必要がある。

表　医師受入研修事業

年度	日　程	研修医師		研修場所（研修内容）
		職	氏　名	
H4	H 4.11.23 ～ 12.4 (12日間)	サハリン州行政保健局次長 サハリン州立病院外科部長 サハリン州立病院血液科部長 同　麻酔科・蘇生術専門医 ユジノサハリンスク小児病院外科部長 ユジノサハリンスク小児病院外傷科部長 ユジノサハリンスク市立病院外科医	コノヴァーロフ・ヴィクトル・ニコラエヴィチ キム・セン・フヴァン グーロヴァ・エレーナ・パヴロヴナ ハローシー・ウラジーミル・イリイチ イリュツェンコフ・セルゲイ・ニコラエヴィチ カリニチェンコ・ゲンナージー・ワシレーヴィチ セミョーノフ・ニコライ・ウラジミーロヴィチ	札幌医科大学医学部附属病院 北海道大学医学部附属病院 北海道立小児総合保健センター
H5	H6.2.14～3.4 (19日間)	サハリン州行政保健局婦人科主任専門員 サハリン州行政保健局小児科主任専門員 ユジノサハリンスク産院小児科主任	イワノワ・オリガ・ミハイロヴナ ルガエヴァ・リュドミラ・パーヴロヴナ ロクチョノワ・エレーナ・アレクセーエヴナ	北海道立小児総合保健センター 札幌医科大学医学部附属病院 北海道大学医学部附属病院 札幌肢体不自由児総合療育センター （小児医療に関する研修）
H6	H6.10.10～10.24 (15日間)	サハリン州立病院心臓リウマチ科長 サハリン州立病院主任医局員	ヴォロシナ・タチャナ・ヴァヂモヴナ ロヴァワ・リューボフ・イワノブナ	札幌医科大学医学部附属病院 北海道大学医学部附属病院 （心臓病及びリウマチ疾患に関する診断法等）
H7	サハリン州医療技術者２人を２週間受け入れる予定で準備を進めていたが、直前に１人が病気となったため、平成８年５月に実施延期			
H8	H8.5.13～5.27 (15日間)	サハリン州総合病院輸血部長 同　外科部医務局員	パラムジン・ユーリー・ワシーリェビッチ パーシン・ビィチェスラフ・セミョーノビッチ	札幌医科大学医学部附属病院 北海道大学医学部附属病院 （急性及び慢性腎不全並びに血管外科技術）
	H9.2.19～3.3 (13日間)	ユジノサハリンスク産院産婦人科医・放射線診断科長 ウグレゴルスク地区中央病院産婦人科医	タロリーナ・オクサーナ・ヴラジミローヴナ エリザリェヴァ・マルガリータ・ヴィタリェヴナ	札幌医科大学医学部附属病院 北海道立小児総合保健センター （産科婦人科における超音波診断）
H9	H 9.12.8 ～ 12.18 (11日間)	サハリン州立腫瘍診療所外科長 サハリン州立腫瘍診療所外科医・耳鼻咽喉科医	ズウェリンスキー・アナトリー・アナトーリェヴィチ プシェカルスキー・セルゲイ・セミョーノヴィチ	札幌医科大学医学部附属病院 （ガン関係の治療、科学療法）
H10	H 10.7.6 ～ 7.20 (15日間)	サハリン州立病院(外傷専門医、整形外科医) ユジノサハリンスク市立小児病院(外傷専門医師)	ペロフ・セルゲイ・ワシーリェヴィチ ザギナイロ・エレーナ・ウラジーミロヴナ	旭川赤十字病院（７／７～７／13） 札幌医科大学医学部附属病院（７／13～７／17） （火傷治療関係）
H11	H 11.8.20 ～ 8.30 (11日間)	サハリン州立病院（皮膚科医） サハリン州立皮膚予防診療所（皮膚科医）	ポルコフ・セルゲイ・ウラジミロビッチ グリボワ・アンジェリカ・アレクサンドロブナ	札幌医科大学医学部附属病院 （皮膚病関係）

注１　平成８年度は、平成７年度の延期分も実施した。